

## スポーツを通して

奥 村 武 夫



口にしているのであるが、グラウンドの条件が違うことと、競い合う相手がないこと等でタイムは比較できないが、大会前と比べてタイムが落ちていた。

疲労していたので、練習量をダウンしたり、練習メニューを変えたりして毎日練習を重ねていた。

全天候グラウンド以外では、スタート

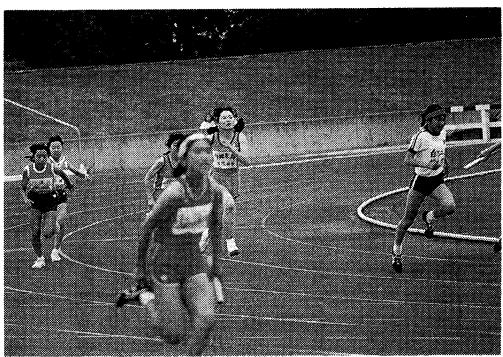
「わるいな」「まだダメか」という声が子供達の間から聞こえてくる。私達もタイムが上がらない理由を

- 1 疲労がたまっているのか
- 2 子供達の精神的な面か
- 3 練習方法がマンネリ化してはいるのか

と色々と考えていると、子供達から「もう一回やろう」と、悔しそうな声で私達に強く迫った。

では、「今度こそ、好タイムを出そう」とお互いに励ましあい、スタートする。小さいミスがあるものの、まあのできであるが、タイムは思わない。

これは、数年前の少年少女リレー大会に向けての練習中の事である。県南ブロックでは、好タイムで入賞でき、それと比較して子供達は「わるい」と



練習の成果を發揮して懸命に走る子どもたち

ラインより先、数メートルは砂で滑つて全力疾走ができない。そこで、きれいに砂等を取り除くよう指導してきた。それにヒントを得てか、ある日、タイムを上げるには砂を取り除けばよいということになり、子供達は、校庭の二百メートルトラックのコース毎に砂を竹箒ではき始めた。日曜日の練習であるから、時間は十分ある。子供達が自

然と走り始めると、走者たる第一印象が上がり、ゴールした時には、全員がピードが上がり、二走者、三走者、四走ともバトンパスもうまく、スピードが上がり、ゴールした時には、全員が県南大会の時のように満足したようであつた。タイムも勿論、以前の練習と比べ好タイムであつた。

現代の子は、困難に耐え、それを乗り越えていく気迫や協調性、連帯感等に欠けていると言われているが、この練習を通して見る限り、この子供達は全くその事が感じられない。

チームプレーでは、自分が苦しい事に耐え、チーム全員が協調し合う事によつて、好タイムが生まれ、よい成績結果が生まれるという事を習得したようと思うし、そこには、私達の指導のねらいの一つあると考えている。

(西郷村立小田倉小学校教諭)

主的に始めたので、一人一人がもくもくと砂取り除き作業を熱心にやつていた。私達も一緒に作業をやり約一時間三十分钟で作業が終わつた。

さて、練習。子供達は、今度こそはで準備中も普段と違つて明るく、雰囲気が全く別であった。

いつもながら、心を一つにするため円陣を組み声をかけ合う。お互いに自分のポジションにつき、スタート準備が完了したところで、スタートと第一走者が呼吸を合わせスタートすると、この数日間は、練習量をダウンしていく事で、疲れがとれたか、ぐんぐんスピードが上がり、二走者、三走者、四走ともバトンパスもうまく、スピードが上がり、ゴールした時には、全員が

三年担任という忙しい学年を終え、学級全員が新しい世界へ出発して行つたのを見届けたこの一瞬が、一番ほつとできる時のように思つ。振り返つて考へれば思い出話になるものだが、大げさに言わせてもらえば奈落の底を歩いている時もあるようなものであろう。

しかし、教師とはこんなものかと達観したようなつもりで、一人タバコに火をつけている自分を見て悦に入るのも悪くない。新任の先生の希望などを読ませてもらうと、生徒一人一人を大切にとか、個性を大切に共に歩みたいと書いてある。その心は失つてはいなつもりだが、どうもスマートに表現できそくにもない。そんな年代に来たのかと思つて、もうちょっと先輩面ができることをしたいと考えるが、いかんせん生來

## 暇つぶしの効用

湖 東 泰 玄

